



富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

28 カクトラノオ

職藝学院

教授 渡邊 美保子

カクトラノオは、北アメリカ原産の寿命の長い宿根草です。日当たりと水はけの良い場所を好みます。花期は8月中旬から9月上旬で、草丈は100 cmを越えます。花の名前の由来は、茎が角ばっていて花穂が虎の尾っぽに似ていることからとのこと。ハナトラノオとも呼ばれています。8月初旬になると、茎のてっぺんから黄緑色の短いしっぽのようなものが現れます。ここには、つぼみがギュッと詰まっています。つぼみたちは二枚の葉っぱに見守られ、くねくねしながら伸びてゆきます。8月中旬には、淡いピンクの筒状の小花がちらほらと咲き始めます(写真1)。この頃になると花穂の長さは10 cm位に伸びています。小花は、4つの茎の面に沿って一列に並び、下から順にのろのろと咲き進みます。花穂も同時にどんどん伸びてゆきます。最後の一つが咲き終わるまでに一ヶ月もかけるという、もったいぶった咲き方をします。咲き終わった花穂は30 cm位の長さになり曲がりくねるので、まるで尾っぽがうねっているように見えます。

カクトラノオの茎は、緑色の細い角材が地面から垂直に突き出るように伸びてゆきます。茎の断面は真四角で、1本の茎には3~4 cmごとに20前後の節があります。それぞれの節には、先がとんがったギザギザの切れ込みのある葉が向かい合って付いています。葉の付き方には規則性があり、向かい合う二枚の葉を付ける節の上には、また、二枚の向かい合う葉が付いています。その葉は、下の葉に対して90度の角度で向きを変えて出ていて、この法則は茎の下から上まで続きます。横から見ると葉の方向性にも規則があり、それぞれの葉は、茎を軸にして斜め上方向を向きます。葉っぱ同士が茎から同じ角度で斜めに葉を出そうと相談しているのではないかと思うくらいです。

カクトラノオの小花には面白い現象があります。それは、一つ一つの花を右へ曲げると右へ向き、同じ花を今度は左に曲げると左に向きます。ちぎれずに花がいいなりになるのです。イギリスの子供たちは、カクトラノオの小花を右へ向かせたり左へ向かせたりして面白がります。イギリスではオベディエント・プラント(いいなりになる植物という意味)と呼ばれていますから、つい小花の向きを変えてしまいたくなるのでしょう。

カクトラノオは、のんびり小花を咲かせるので主役になる花ではありません。しかし、直立する花茎が集団で広い面積を埋め尽くしたときには、やさしいピンク色の花が夏の青い空と溶け合って涼しげな色合いになります。しかも、茎が丈夫で倒れることもありません。カクトラノオは、一株植えると一冬越すたびにどんどん横に広がってゆきます。そのため、ひと固まりの群れのように咲かせるのがおすすめです(写真2)。



写真1 カクトラノオの花 8月中旬
小花は、花穂の下から上へ向かって咲き進む



写真2 カクトラノオの群落 9月上旬
植栽後7年経過した様子